

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅢB(AB302)			担当教員	安部直樹 嶋内麻佐子 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
逆勝手濃茶点前の修得を通して、もてなしについて考える力を培い、社会生活に必要な礼儀作法やグループの中でのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。茶会の組み立て方や各役割について理解し、大学施設内(1101 教室)にて 200 名規模の観月茶会を実施することで、地域貢献を行い、茶道におけるもてなしを目指す。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	逆勝手点前と本勝手点前の違いや茶事について理解を深め、説明することができる。				ペーパーワーク	5%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	状況を判断し、茶会における役割(亭主・接待・水屋)を果たすことができる。				課題レポート	10%	
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、7~8名のグループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	「逆勝手濃茶点前」が実践できる。				実技確認	55%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
実技確認の成績は 55%とし、逆勝手の道具の置き合わせの変化と点前の順序の違いを理解しているかなどから評価する。授業態度を 30%とし、稽古への積極性を評価する。毎回の授業内容を記録カードに記入し確認する。課題レポートは 10%とし、ポートフォリオを利用する。課題レポートの内容としては、観月茶会の役割を果たしたか、チームワークは取れたかなどを感想から評価する。ペーパーワークは 5%とし、第 6 回目と第 13 回目に実施する。課題レポートやペーパーワークについては、採点を行い学生に返却する。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。							
授業の概要							
7~8名のグループに分かれて、グループワークを通して逆勝手濃茶点前を完成させることを目標とする。また、中風炉点前を実践することで、季節に合った点前があることを理解する。授業の中では、茶会の組み立て方を学び、各役割の仕事を把握し、理解する。その実践の場として、観月茶会を実施・運営し、客を迎えおもてなしをする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400 円の諸経費が必要である。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分である。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011 年) 参考書：嶋内 麻佐子構成 DVD『鎮信流 茶会の流れ』長崎短期大学特色 G P 関連事業(2007 年) 指定図書：嶋内 麻佐子著『別れの茶会』長崎短期大学特色 G P 関連事業(2009 年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。</li> <li>・観月茶会実施に向けて、茶会の内容を理解し、自分の役割に責任を持って遂行すること。</li> <li>・授業内の逆勝手点前実施の為、その準備として濃茶点前の内容を確認しておくこと。</li> <li>・点前の修得だけでなく、茶の行事や地域で開催される他流の茶会にも積極的に参加することで、幅広い茶道の文化を学んでもらいたい。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・ 観月茶会説明 ・ パート別練習	各役割(亭主・半東・接待・水屋・司会・受付)に分かれ、パート別で練習をする。	講義概要(シラバス)を確認する。
2	・ 観月茶会練習	茶会会場にて、観月茶会のパート別の練習をする。	各役割(亭主・半東・接待・水屋・司会・受付)の動きについて予習・復習をする。
3	・ 観月茶会 (200名規模)	観月茶会の企画・運営をする。茶会に備えて会場の準備設営を行う。観月茶会は、外部からの参加者、教職員と学生が一体となり、茶会を通して地域貢献を行う。	観月茶会の成功を目指し、パート別練習に参加する。
4	・ 中風炉点前稽古①	中風炉点前の復習。	点てほぐしの変化を予習・復習する。
5	・ 中風炉点前稽古②	中風炉点前の復習。	茶を出す位置と客点前の予習・復習をする。
6	・ 逆勝手濃茶点前見本 ・ ペーパーワーク	逆勝手濃茶点前の見本を確認し、概要を理解する。	濃茶点前の流れを整理する。
7	・ 逆勝手濃茶点前稽古①	逆勝手濃茶点前の復習。	道具の扱い方について復習する。
8	・ 逆勝手濃茶点前稽古②	逆勝手濃茶点前の復習。	茶の出し方の予習・復習をする。
9	・ 逆勝手濃茶点前稽古③	逆勝手濃茶点前の復習。	逆勝手濃茶点前の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
10	・ 逆勝手濃茶点前稽古④	逆勝手濃茶点前の復習。	逆勝手濃茶点前の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
11	・ 点前確認 (逆勝手濃茶点前)	逆勝手濃茶点前がどこまで理解されているか、確認する。	逆勝手点前の完成を目指す。
12	・ 点前確認振り返り ・ 茶事の流れ (DVD)	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。茶事の流れについて確認する。	点前確認を振り返り、自己評価する。
13	・ 茶事について ・ ペーパーワーク	茶事におけるもてなしについて学ぶ。	茶会と茶事の違いについて予習・復習する。
14	・ 初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。	日本の正月について予習・復習する。
15	・ 松芳忌	学校法人九州文化学園創設者である安部松芳氏の遺徳をしのび、献茶式を実施する。『南方録』の教えである利休七則を通して、人が人として当たり前のことができる人間の生き方について講義する。	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。